



「生活習慣病」の正しい定着を

正しい定着を

▼「生活習慣病」。まだ聞き慣れない言葉だが、これが厚生行政のキーワードとして、今後、頻繁に用いられるようになる。昨年十二月十八日に公衆衛生審議会が厚相に対して行った意見具申『生活習慣に着目した疾病対策の基本的方向性について』では、昭和三十一年代から行政用語として用いてきた「成人病」とそれに基づく保健医療施策について一定の評価をした上で、「成人病の発症に深く関与している生活習慣を改善するため、そこに着目した疾病概念を導入し、特に一次予防対策を推進していくことが肝要である」と、「生活習慣病」という概念の導入の必要性」を強調した。

▼これは、今後の成人病予防に当たっては、公的な保健医療施策の他に、個々人の自助努力を上乗せしなければ成果は得られない、あるいは自助努力を促す公的施策が必要である—という文脈になり、一

つの正論として広く受け入れられよう。しかし、裏を返せば、現在の成人病予防に関する保健医療施策が限界に達したことを意味し、意見具申は保健医療施策の大きな転換点として位置づけられるのではない。

▼そして、このように国の政策が大きな曲がり角を迎えるに当たって懸念されるのは、「成人病は個人責任」と曲解されて、国が国民の健康、保健医療施策について責任を回避し始めたとも受け止められかねないということである。

▼勿論、意見具申を読めば、生活習慣病の定義を把握することは可能だが、一人一人が意見具申を精読するわけにもいかず、また成人病という言葉がこれまでお手軽に用いられ、国民に定着してきたことを踏まえるなら、生活習慣病という言葉も変に一人歩きしてしまうこともあり得る。概念が定着していない現時点では、この言葉自体、そうした

危険性をはらんでいる。

▼意見具申でも、こうした意味の取り違えが起らないよう、「疾病の発症には、生活習慣要因のみならず、遺伝要因、外部環境要因など個人の責任に帰することのできない複数の要因が関与していることから、『病気になるたのは個人の責任』といった疾病や患者に対する差別、偏見が生まれるおそれがある」という点に配慮する必要がある」と指摘しているのは、当然のことと言えよう。

▼しかし、この意見具申を受け厚生省が九年度に行う施策は、糖尿病の実態調査、がん克服新一〇か年戦略や長期慢性疾患総合研究事業の中での生活習慣関連の研究など、限られた分野に留まる見通しだ。意見具申では、今後の具体的な課題として、生活習慣病の観点からの疾病予防に向けた包括的な指針や、成人病の危険因子を持つ者に対する日常生活指針といった一次予防におけるガイドラインの作成を提案しており、こうした国民の正しい理解に結びつく手段が早急に必要であろう。

ラジオ・テレビ放送医学番組

		1月12日～17日		1月19日～24日	
話題の医学 テレビ東京 (午前5:15～5:30)	12 (日)	皮膚の前癌状態 筑波大・大塚藤男	19 (日)	<私の手術>直腸癌に対する神経温存手術 弘前大・今 充	
	12 (日)	ぜんそく治療の新しいガイドライン 国立相模原病院・秋山一男	19 (日)	心臓病を防ぐ高血圧治療のポイント 慶大・猿田亨男	
きょうの健康 NHK 総合テレビ (午後2:35～2:50) 再放送は同日の 教育テレビ午後 8:45～9:00	13 (月)	こころの病—軽いうつ病 慶大・浅井昌弘	20 (月)	骨粗鬆症 最新情報—早く見つける 信州大・高岡邦夫	
	14 (火)	同一パニック障害 慶大・浅井昌弘	21 (火)	同一骨を強化する 信州大・高岡邦夫	
	15 (水)	同一対人恐怖症 慈恵医大・牛島定信	22 (水)	耳の病気—突発性難聴 慶大・神崎 仁	
	16 (木)	治りにくいなぜ ペニシリン耐性肺炎球菌 帝京大・紺野昌俊	23 (木)	同一聴神経腫瘍 慶大・神崎 仁	
	17 (金)	入浴健康法 血圧にやさしい入り方 健康開発財団健診C・植田理彦	24 (金)	入浴健康法—肩こり・腰痛予防 健康開発財団健診センター・植田理彦	
Oh! 診 日本テレビほか31局	17 (金)	冬に多いやけど	24 (金)	寒い! シリーズ第1弾 神経痛	